

概 要 報 告

実施期日	8月5日(月)
部 会 名	中学校 社会部会

神奈川県研究主題

テーマ

『 「個別最適な学び」と「共同的な学び」の一体的な充実を目指して

～タブレット端末を効果的に活用した実践～ 』

提案概要

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて「個別最適な学び」と「協働的な学び」に焦点を当てた。中央教育審議会の取りまとめにもある「令和の日本型学校教育」の構築に向け、子供たちの可能性を引き出すためにICTを活用していくことにした。その手立てとしてタブレット端末を活用した実践を行った。

生徒の主体的な学習において興味関心を引く「学習の個性化」を意識した授業づくりが重要になってくる。特に公民的分野では適切な課題設定、課題の追求・解決に向けた活動設定とともに「子供がどう学ぶか」という学び手視点での授業づくりが肝要である。その実践例として本提案では以下の3点を活用する授業を行った。

1 株式学習ゲーム

(日本証券業協会 金融・証券教育センター東京証券取引所 金融リテラシーサポート部)

目的 株式の模擬売買を通じて、株価変動の背景となっている現実の経済・社会の動きに生徒の目を向けさせる。

成果 グループで売買を進めていくため銘柄決定には合理的な理由が求められる(協働的な学び) 企業の情報を集めることが、間接的に進路選択の一助となる(個別最適な学び)

2 ロイロノートを活用したプレゼンテーション

目的 株式会社の資金調達について体験的に理解する。

班員と協力して活動する中で多面的・多角的な学びへとつなげる。

成果 班でプレゼンテーションを作成する中で様々な視点で考察することができる(協働的な学び) 「株式学習ゲーム」と連動させることによって株式会社を体験的に学ぶことができる。

3 Googleフォームとスプレッドシートを活用した振り返りシート

目的 第3観点の評価に活用する。

学びを効果的に振り返らせ、学習意欲の向上とメタ認知につなげる。

成果 学習を可視化することができる。

生徒の問いや疑問に即時に反応できる(個別最適な学び)

ポートフォリオ化することでより見やすいメタ認知につながる(個別最適な学び)

以上の観点から、タブレット端末の活用が「個別最適な学び」、「協働的な学び」から主体的・対話的な深い学びの充実につながることを再認識することができた。今後もICT機器について活用を前提とする一方で様々な教育課題が顕在化していくことが予想される。変化に柔軟に対応しつつ、カリキュラムマネジメントの充実を意識することが重要である。そのうえで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた学び手視点での授業改善に努めていくことが必要である。

質疑応答

○授業の課題点について

- ・書くから入力に変えることで知識の定着にどういった影響があったか。
- ・知識の定着度に関してどう効果を見とることができるか。

協議の柱及び協議概要

「主体的、対話的で深い学びにつなげるICTの活用について」

○実践的なものとしてグーグルマップをつかった行先を見てみる。

○桃太郎電鉄などのソフトの活用。

○課題

- ・小学校低学年ではローマ字入力が難しい場面がある。
- ・家でも学校でもパソコンを見ている環境がいいのかという疑問がある。
- ・パソコンによる入力では知識の定着の難しい場面がある。入力ではなく書いたほうが知識の定着が効果的な場面がある。
- ・小学校高学年から活用して中学校に繋げていきたい
- ・高校入試で知識が問われる場面が控えている中で書かせたほうがいいのかジレンマがある。

まとめ概要

本提案では、研究主題でもある「主体的、対話的で深い学び」に着目し、ICTを活用した授業実践で子供に適した、協働的な学習を行うためにタブレット端末やソフトを利用しながら授業を進めた。授業では子供の創造性や特色ある発想とともに、主体的な学びや対話的な学びを実践することができていた。

一方で今回の単元である株式会社は、子供から「遠い」内容になってしまい表層上の学びになってしまうことが懸念された。いかに子供にとって「近い」内容で学びを進めることができるかが重要であり、子供たちにとって身近な問題として捉えさせることで主体的な学びの効果を向上させることにつながる。

主体的に学習に取り組む力の育成には、各学校で様々な取組が行われているが、ICTの活用には良い部分だけではなく、小学校や中学校によるできることの違いや、知識の定着、評価の難しさなど授業を行う上で授業者側が、明確な進め方と先の見通しを持っておくことが重要である。ただし、タブレット端末などICTに関して、適切に使い切ることで「主体的、対話的で深い学び」につなげることができる。

助言者から、タブレット端末というツールを活用することによるメリットとデメリットを考えながら活用する必要がある。PDCAサイクルを繰り返しながら、すべての生徒が発表に向けて意欲的に取り組む姿を見ることができた。普段授業に対して消極的な子供も一緒に考え、一緒に作り上げていくことができ、興味関心を高めることができ、知識を高めることにつながっている。昨今のギガスクール構想が定着してきたなかで、同時に情報モラルについても同時に考えさせていく必要があり、表裏一体であることを理解した上でより良いICTの活用を目指す機会になった。